

放課後等デイサービスに携わりたい動機

私は以前、[REDACTED]でトレーナー職を行いながら子どもの運動教室も行っておりました。

そこで子どもの運動や発育についての研修を受ける中に、教育学者である山梨大学の中村教授が監修をされたプレイリーダーという資格が新たに新設され第一期生として受講を行いました。

※プレイリーダー＝遊びを考え導く人（海外では以前よりある資格）

その中では運動や遊びを通して体力・学力・コミュニケーションの3つの相互補完を行い成長を促すことができ、社会性も養えるという考えがあります。

私は運動から生活に必要な基礎になる要素を養える、この理論をもとに自施設や各地の施設、保育所・小学校等で行なっていました。

プレイリーダー理論の他にも、保育所や幼稚園、小学校での体育の授業では、一人の子どもが動いている時間は45分中5～10分程度しか体を動かしていないことも多々あります。それ以外の時間は座って待つ動作が多く、身体活動量はかなり少ないのが現状です。

ですが私たちが行ってきた指導内容では、45分授業中はほとんどの時間を子どもたちが、体を動かす時間となっております。そうすることで45分の短時間でも子どもたちは充実した運動を行うことができます。

また保育園や小学校のクラスに一人は発達障害の子どもがいることが珍しくはなく、また特定の物事に苦手意識を持つ子どもも多いと思っていました。そのような苦手意識がある子どもを指導する場合は、大人数の中で丁寧且つパーソナルに指導ができることができずに、私が思った指導ができませんでした。

だからこそ個別を主体に短時間で質の高い療育を行いたいと考えています。

また体操教室の体験には保護者から「発達障がいと診断をされているのですが大丈夫ですか？」と質問をされながら来られる方もおり、私個人として発達障害は一つの個性だと考えているので、まずは体験を行ってもらい他の生徒との状況を見ながら参加の有無を判断をしていましたが、障がいあるからと遠慮して運動教室に通えない方が多くいら

